



DIAS_Satellite_ERS1_AMIデータセット

1. 識別情報

名称	DIAS_Satellite_ERS1_AMIデータセット
メタデータID	DIAS_Satellite_ERS1_AMI20230727091148-DIAS20221121113753-ja

2. 問合せ先

2.1 データセットに関する問合せ先

名前	濱本 昂
組織名	宇宙航空研究開発機構
住所	日本, 305-8505, 茨城県, つくば市, 千現2-1-1
電話番号	+81 50 3362 7989
ファクシミリ番号	+81 29 868 2961
電子メールアドレス	hamamoto dot ko dot at jaxa dot jp

2.2 プロジェクトに関する問合せ先

2.2.1 データ統合・解析システム

名前	DIAS事務局
組織名	国立研究開発法人海洋研究開発機構
住所	日本, 236-0001, 神奈川県, 横浜市, 金沢区昭和町3173番25
電子メールアドレス	dias-office@diasjp.net

3. ドキュメント作成者

名前	濱本 昂
組織名	宇宙航空研究開発機構
電子メールアドレス	hamamoto dot ko dot at jaxa dot jp

4. データ作成者

名前	濱本 昂
組織名	宇宙航空研究開発機構
電子メールアドレス	hamamoto dot ko dot at jaxa dot jp

5. ドキュメント作成年月日

2023-07-27

6. データ作成年月日

revision : 2016-01-22

7. データセット概要

7.1 序論

CEOP衛星データセットは、衛星オリジナルデータから等緯度経度格子ヘリサンプリングしたグリッドデータである。データ期間はCEOPフェーズ1で定義しているEOP-3、EOP-4期間およびフェーズ2の2007年以降である。出力データの対象領域は35地点（フェーズ1の場合）もしくは52地点（フェーズ2の場合）のリファレンスサイト、5箇所のモンスーン領域および全球の3タイプのスケールがある。使用している衛星データは、MODIS、AMSR-E、SSM/I、PR、TMI、AVNIR2、PALSAR、PRISM等と数多く、データセットのパラメータも大気圏、海洋圏、陸圏、雪氷圏と多岐におよぶ。

■衛星

ERS :

ヨーロッパリモートセンシング衛星は1991年(平成3年)に1号機、1995年(平成7年)に2号機が高度約780kmの太陽同期準回帰軌道に打ち上げられました。海洋、海水分布、海上風、海洋循環等の観測を主に、陸域情報も高分解能レーダで観測する地球観測衛星です。

観測機器は合成開口レーダ(AMI)、測風散乱計(SCAT)、レーダ高度計(RA)、走査放射計及びマイクロ波サウンダ(ATSR-M)、レーザ反射鏡(LRR)、精密測距装置(PRARE)が搭載されており、SAR以外はデータレコーダに記録することができます。衛星の回帰日数は35日を標準として、3日、176日の3種類の運用モードがあります。

■センサ

合成開口レーダ(AMI)

■プロダクトレベル

L1

■分解能

30m

■作成エリア

アフリカ ボルタ川

7.2 トピックカテゴリ(ISO19139)

geoscientificInformation

7.3 時間情報

開始日	1991-12-10
終了日	2000-03-10

7.4 地理的範囲

北限緯度	10
西限経度	-5
東限経度	5
南限緯度	0

7.5 グリッド

7.6 地理情報を識別する名称

7.7 キーワード

7.7.1 データセットに関連するキーワード

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	land	No_Dictionary

7.7.2 プロジェクトに関連するキーワード

7.7.2.1 データ統合・解析システム

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	DIAS > Data Integration and Analysis System	No_Dictionary

7.8 データセットに関するオンライン情報

ERS : <https://earth.esa.int/web/guest/missions/esa-operational-eo-missions/ers>

7.9 データ周辺情報

7.10 データ配布情報

配布識別名	配布バージョン	配布に関する説明
-------	---------	----------

8. 系譜情報

9. 品質等

10. 利用規約

10.1 データ提供者によるデータ利用規約

10.2 プロジェクトによるデータ利用規約

10.2.1 データ統合・解析システム

データ提供者がデータ利用規約を定めていない場合は、DIASサービス利用規約 (<https://diasjp.net/terms/>) およびDIASプライバシーポリシー (<https://diasjp.net/privacy/>) が適用されます。

DIASサービス利用規約とデータ提供者によるデータ利用規約に齟齬がある場合は、データ提供者によるデータ利用規約が優先して適用されます。

11. ライセンス

12. 謝辞の記載方法

12.1 データ提供者の指定による謝辞の記載方法

12.2 プロジェクトの指定による謝辞の記載方法

12.2.1 データ統合・解析システム

このデータセットを利用して学会発表，論文発表，誌上发表，報告などを行う場合は，以下を参考に謝辞を記載すること。また，データ提供者が示す謝辞の記載方法がある場合は，それも併記すること。

“ 本研究では、[データ提供者の名称]が提供する[データセットの名称]を利用した。またこのデータセットは、文部科学省の補助事業により開発・運用されているデータ統合解析システム(DIAS)の下で、収集・提供されたものである。 ”

13. 参考文献